

令和6年度 第1回住吉区地域福祉専門会議

令和6年6月6日（木）

【南保健福祉課長代理】 定刻になりましたので、令和6年度第1回地域福祉専門会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます住吉区役所保健福祉課課長代理の南と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、後ほどグループワークを行う予定をしておりますので、当初よりその座席配置とさせていただきます。

それでは、開催に当たりまして、橘住吉区長からご挨拶申し上げます。よろしくお願い致します。

【橘区長】 皆様、こんばんは。今年の4月に就任いたしました区長の橘でございます。本会議は、西田委員長をはじめ、委員の皆様並びにアドバイザーの小野先生におかれましては、ご多用の中、また、遅い時間から当該会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素より住吉区政の各般にわたりまして温かいご理解とご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、「住吉区地域福祉ビジョン」の改訂に向けまして、皆様方から様々な視点によります貴重なご意見を頂戴いたしました。そのことにより、多くの区民の皆様親しみを感じていただけるようなビジョンとなりましたことに感謝申し上げる次第でございます。

先ほど司会のほうからもございますけれども、本日は、改訂いたしました地域福祉ビジョンVer.3.0において、重点的に取り組むべきことをテーマに、後ほどグループワークを実施していただく予定としてございます。その中で、皆様方からいただくご意見は、今後、ビジョンの実現に向けた取り組みを着実に進めていく上で大変貴重なものとなりますことから、皆様方から忌憚のないご意見、そして、グループ内での活発なご意見を賜りたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

【南保健福祉課長代理】 それでは、このたび地域活動協議会会長会推薦の田中委員が会長を辞任されましたので、新たに清水丘地域活動協議会の相良会長を地活協会会長としてご推薦いただきました。令和7年9月30日までの任期で委嘱させていただきます。

本日、相良委員は所用によりご欠席ですので、紹介のみとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日ご出席の委員さんにつきましては、名簿をお配りさせていただいておりますので、ご参照ください。

なお、相良委員、藤本委員、松岡委員におかれましては、本日所用によりご欠席でございます。また、アドバイザーとして桃山学院大学の小野教授にもご参加いただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、会議を始めさせていただきますが、その前に皆様方にお願いがございます。議事録を残すために、ご発言いただく際にお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。また、録音をさせていただきますので、マイクのご使用もよろしくお願いいたします。

なお、大阪市ではデジタルツールを最大限活用した会議運営の推進の取り組みの1つとして、区政会議や専門会議の様子をYouTubeにて公開するウェブ傍聴の実現をめざしています。区政会議については既にウェブ傍聴が行われており、本会議につきましても今後公開を検討してまいりますので、事前に周知させていただきます。

それでは、案件に入らせていただきます。西田委員長に進行をお願いいたします。

【西田委員長】 西田でございます。本日はよろしくお願いいたします。

早速、次第に入っていきたいと思います。

それでは、報告1の「住吉区地域見守り支援システムの進捗状況について」に移ってまいります。皆様方からのご意見、ご質問等につきましては、引き続きの報告2「地域座談会の開催状況について」、報告3の「地域包括支援センターの運営協議会報告について」の説明が終わった後にまとめてお願いをいたします。

それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

【増田地域福祉担当係長】 保健福祉課の増田です。よろしくお願いいたします。

資料1の「地域見守り支援システム進捗状況」ということで、昨年10月に名簿を更新させていただきました。3月に追加台帳ということでお配りをさせていただきました。その合計数が①という欄に書かせていただいております。そこから10月以降削除者の数を引かせていただくと、左の現在の台帳登録者ということで、地域の方にお渡しをしております台帳の数、総数で5,250人分の台帳が今、地域にお渡しをさせていただいているということです。

予定としまして、この10月に今のところ新規提供者ということでプラス512名分を随時整備させていただいているところであります。また、個別支援プランとしましては、右から2番目に書かせていただいておりますように、全地域で避難支援者の入ったプランとして、総数で2,617名分の個別支援プランが現在作成をされております。

支援者記載なしという形でそれぞれ地域のほうで作成をしていただいた数としては218名分が上がっておりまして、引き続き、この4地域についても全員分が作成されるよう、今後取り組んでいくという形になります。よろしくお願いをしたいと思います。

見守り支援システムの進捗としては、以上とさせていただきます。

続きまして、「地域座談会の開催状況」ということで、資料2を見ていただきたいと思います。

昨年度、令和4年度から5年度にかけまして、山之内地域のほうで3回、座談会を開催させていただきました。3つのグループでそれぞれめざすべき姿、理想の場面ということで、3回目では理想の場面実現に向けてということで、少し具体的に何をしたいこうということが話し合われまして、1班のチーム・ラビットでは、ユニバーサルもちつき大会を年末までにとということで、食べて終わりではない楽しい仕掛けということ、2班のP r e t t y F a m i l yでは、山之内版防災手帳づくりをまずは一町会からモデル的に始めてみようといったところ、3班の餃子という班では、高齢者と子どもの自由な交流をめざして、地域の空き家リサーチからというようなところがそれぞれ取り組みの実現に向けて、案が出されてきているということになっております。

裏面に参りまして、本年度としましては山之内地域で、3回目で検討された内容について、実現に向けて引き続き、継続して実施をしていきたいというふうに思っております。

また、新たに清水丘地域、住吉地域、こういった2地域について、開催に向けた地域の意向確認を行い、手順に従って進めていけたらというふうに考えております。

座談会の開催状況については、以上です。

【安井保健副主幹】 住吉区役所の保健福祉課の高齢支援担当の安井と申します。よろしくお願いします。

私の方からは、住吉区の地域包括支援センターの運営協議会を毎年させていただいているんですけれども、その内容についてこの場で報告させていただきたいと思っております。1枚物の資料3というものがあるかと思います。そちらをご参照ください。

この地域包括支援センターの運営協議会というものは、まず、地域包括支援センターの

運営に関するようなものを話し合う会議になっているのですけれども、年3回設けておりまして、その前の年の事業報告、それから当該年度の事業計画について話し合ったりとか、地域包括ケアに関するようなことで、皆さんで議論していただくというような場になっております。

この報告内容の1枚物にまとめさせていただいているものにつきましては、主に3回目で話し合っていたいただいた内容で、それぞれの圏域地域の活動から見えてきた課題について大まかに4つのテーマに分けさせていただきまして、こういう課題があるのではないかとということと、それから、それに向けての取り組む方向性については、こういうことで方向性を向けていったらいいんじゃないかというようなことを、委員さん方からのご助言もいただきながら、まとめていっている次第です。

「見えてきた課題」や「取り組む方向性」は、4つのテーマに分けさせていただいているものの、似通っている部分もあるんですけれども、今回、これを報告させていただいているんですけれども、例年上がっているテーマの1つとして、一番最後のところ書いている金銭管理のところが上がっていることが多く、キーパーソン不在の方の対応についてということをごこの包括圏域のところでも課題に上がっているところです。

この金銭管理につきましては、本区だけの問題ではなく、市全体での課題として必要なところではあるかと思いますので、この運営協議会の内容については、市の運営協議会の方に上げるようにさせていただいておりますので、この金銭管理の課題につきましては、市の運営協議会の方で、取り組んでいただきたい課題ということで上げさせていただいている内容です。

簡単にはなりますけれども、報告は以上です。

【西田委員長】 ただいま事務局より3つのことについてご報告がありましたので、皆様方からご質問、ご意見はいかがでしょうか。よろしいですか。特にございませんか。大丈夫ですか。

ちょっと場が固まっていますので、突然名指しで質問するとあまりよくないのかなと思いますので、このまま流します。

それでは、続きまして議事に移ってまいりますので、事務局から、1つ目の議事についてのご説明をお願いいたします。

【中濱保健福祉課長代理】 保健福祉課、中濱です。私のほうから、それでは、「住吉区地域福祉ビジョンVer.3.0」（案）におけるパブリック・コメントの実施結果について、

説明させていただきます。座って説明させていただきます。

資料につきましては、資料6をご覧ください。資料6の「ビジョン（案）Ver. 3.0にかかるパブリック・コメント手続きの実施結果」という資料になります。

募集につきましては、3月29日から4月30日までの期間で実施をいたしました。

意見の募集方法としましては、郵送による送付、ファックス、電子メールなどで募集をさせていただきまして、ビジョン（案）の公表方法としましては、区役所や区社会福祉協議会での配架、住吉区のホームページで公表をいたしました。

その結果、いただいた意見の受付件数が2件で、意見の合計件数が5件ございました。いただいた5件の意見の要旨につきましては、資料7をご覧ください。

資料7につきましては、いただいたご意見の要旨と当区の考え方となっております。いただいた5件のご意見の要旨と当区の考え方につきまして、順にご説明させていただきます。

1番のご意見の要旨ですが、違いを認めて助け合う、というテーマでつらつらと記されているが、綺麗ごとで表面的で机上の空論で現実味にかけられる理想論でしかない。

かなり前、町会加入の案内か何かで、「町会費を払ってない人が災害避難時に利用してもらったら困る」というような意見があった。こういう考えがある以上、違いを認めて助け合うことなどまず無理であろう。

助け合うのは大事だが、いろんな古い考えや差別的な考えがはびこる町会主導ではなく、役所かNPO等が主導でなければ「違い」を認めて取りこぼしのない支援は無理である。昨今なんでもかんでも「多様性を認める」というが、町会費を払わない人を排除したいという考えもありで、町会に加入しないもありなわけで、多様性という体のいい言葉に集約される個々のバラバラな意見を良い塩梅での折り合いというか、折衷というか、落としどころを探るのは役所主導で図っていただきたい。

当区の考え方としましては、地域福祉ビジョンでは、「支えあいの力で誰もが自分らしく生き生きと地域の中で暮らすことができる、新しいしあわせ」をめざしています。

そのために、みんなで話し合い、ともに実践していくことで、誰もが自分らしく生きることができ、自分たちが住むまちがこうなってほしいという希望を形にしていける「増進型地域福祉」を推進しています。

地域福祉を推進するためには、このまちに暮らす多くの人々が、話し合いの中でお互いの意見を認め合うこと、すなわち、多様性を認め合うとともに、意見の違いを克服し、みん

なでめざすことができる理想のまちのあり方を創造していくことが何よりも大切になります。

そしてまた、できるだけ多くの方が身近な人と人との「ゆるやかなつながり」をつくっていくような、誰もが始めやすい取り組みを少しずつ広げていくことも重要であると考えます。

いただいたご意見も参考に、今後とも地域福祉を推進していきますとしております。

2 番目のご意見の要旨ですが、人口15万人余りの住吉区ですが、ボランティア・市民活動グループも区単位では組織が小さく、人材面や活動面で十分な活動ができていないところが多いように感じています。活動内容や方向性によっては、区役所・区社会福祉協議会も関わりながら、近隣区のボランティア・市民活動グループと協働しながらレベル向上や活動の充実を図っていったらどうでしょうか？

当区の考え方としましては、住吉区ボランティア・市民活動センターに登録されているボランティアグループは現在42団体、今現在は46あると聞いていますが、この回答のときは42とつくらせてもらっております。それぞれが様々な分野で活発に活動されています。ご指摘のように、組織的課題を抱える団体もあると思われますので、近隣区のボランティア等との協働につきましては、現在、南ブロックの社会福祉協議会の担当者が定期的に集まり意見交換していますので、いただいたご意見を参考に、活動レベルの向上や充実を図りますとしております。

裏面に行きまして、3 番のご意見の要旨ですが、若者や女性の意見や人材を幅広く取り入れたいと願う地域や組織は多いのですが、「どうせ意見を言っても、動いてもむだ」と最初から諦めている人は非常に多い。柔軟な発想やちょっとした気づきをきっかけに仕事や仕組みを変化改善できる可能性が大きい福祉や行政に携わる方々は、地域や組織内の小さな声やつぶやきにぜひ耳を傾けてほしいと思います。

当区の考え方ですが、地域福祉の推進には、多くの人々が、話合いの中でお互いの意見を認め合い、みんなでめざすことができる理想のまちのあり方を創造していくことが大切です。いただいたご意見を参考に、誰でも話したいこと、相談したいことをためらうことなく伝えることができるような環境をめざします。

また、福祉や行政に携わる職員や支援者には、そういった小さな声にも気づくことができるような感度を高める研修などを引き続き実施します。

4 番目のご意見の要旨ですが、相談窓口や訪問先で見聞きして受け付けた内容にとどま

らず、想像力を十二分に働かせて、その背後に潜む課題にまで掘り下げて、組織的に対応できるような住吉区であってほしいと願います。

当区の考え方ですが、様々な事情で自ら支援を求めることが困難な方をいち早く発見し、寄り添いながら必要な支援につなげていくことは非常に重要です。いただいたご意見を参考に、相談窓口などで気になる人をいち早く発見し、必要な支援につなぐことのできる職員や支援者が増えることをめざします。

また、組織的な対応には、地域住民・専門職・行政の連携が非常に有効であるため、連携先で情報を共有したり、話し合ったりできる機会を今後、更に増やします。

最後になりますが、5番目のご意見の要旨です。14歳以下の乳幼児・児童・生徒や65歳以上の高齢者への医療・介護・福祉の諸制度やサービスの充実度合いに比して、15歳～64歳に対しては十分でないと感じます。事故や病気による高次脳機能障がいや、治療に結びついていない精神疾患などで苦しんでいるなど、制度や仕組みに引っかからないような当事者・家族は相当数いると予想されることに留意しながら、家族をまるごと支援できるような取り組みを視野に施策を進めていってほしいと願います。

当区の考え方としましては、支援が必要にもかかわらず自ら支援を求めることができなかったり、8050問題など複合的な課題を抱えていたり、制度のはざまに陥っている人々などを支援するため、分野を超えた相談支援体制の充実が求められています。

いただいたご意見を参考に地域住民と専門職や行政などがうまくつながり、当事者だけでなく家族まるごと支援できるよう、「つながる場」の開催をはじめとする包括的な相談支援体制づくりを推進しますとしております。

パブリック・コメントの実施結果についての説明は以上です。

【西田委員長】 事務局からご説明があった内容につきまして、ご質問、ご意見はいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、質問を1つだけさせていただきます。これはどういう感じで返すんですかね、このご意見は。ホームページで上げてということですかね。

【中濱保健福祉課長代理】 保健福祉課、中濱です。いただいた意見につきましては、大阪市のホームページのほうでパブリック・コメントの実施結果を載せるページがございますので、そこのホームページに明日以降、掲載したいと思っております。

【西田委員長】 いただいた意見と当区の考え方の中で、当区の考え方の中に今回の施策の内容が入っていたりとかしていると思うんですけど、例えば一番最後であつたら「つ

ながる場」の開催とか。「つながる場」と書いてあると、「つながる場」をクリックすると、その「つながる場」について書いてあるリンクを貼るみたいな、ちょっと丁寧にお返しするとか。多分、情報格差みたいなのが裏側にあるのと違うかなと思ったりもしますし、そういうリンクを貼って、説明をさらに検索していけるみたいなこともひとつ工夫でいいんじゃないかなというふうに思います。

【中濱保健福祉課長代理】 ありがとうございます。保健福祉課、中濱です。

今回、ビジョンの中でも用語説明をしているような文言が多々ございますので、今回の当区の考え方等につきましても、そういった用語説明をしているような文言につきましては、リンクを貼って丁寧に説明していけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

【西田委員長】 そのほかご質問いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、今回のパブリック・コメントの結果、ビジョンの考え方を補強するご意見でビジョンを修正するまでに至らなかったという判断ですので、住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0として公表されますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次の議事、「住吉区地域福祉ビジョン」実現に向けた地域座談会の開催について、事務局よりお願いいたします。

【増田地域福祉担当係長】 地域福祉課、増田です。私のほうから説明をさせていただきます。座らせていただきます。

地域福祉ビジョン実現に向けた地域座談会の推進についてということで、地域座談会は、地域福祉を推進していく上で地域の多様な主体、地域住民だけではなく、学校や企業、専門職などが参加をし、対話を基本として、このまちのしあわせ、ウェルビーイングの実現をめざす「増進型地域福祉」の考え方に基づきワークショップを行い、地域の課題を話し合い、課題に対する「めざすべき姿」「理想の場面」を話し合っていく、これが1年次ということで、引き続き話し合ってきた「理想の場面」実現に向けた実施企画についてワークショップ2年次を開催し、事業実施を図っていくという形で進めてきております。

平成29年6月策定の住吉区地域福祉ビジョン Ver. 1.0において「重点的に取り組むこと」として、この地域座談会について取り組むということを上げさせていただきまして、平成30年度にアドバイザーとして大阪府立大学（当時）、現桃山学院大学の小野教授にアドバイザーとして参画をいただいて、「増進型地域福祉」の考え方を取り入れた地域座談会を墨江、長居、荻田の3地域において実施をしてきました。

平成31年度（令和元年度）には東粉浜、南住吉、荏田南の3地域で新たに実施をするともに、前年度実施地域において、事業実施に向けた実施企画について話し合う2年次の座談会開催を支援してきました。

令和3年度6月に地域福祉ビジョン改訂を行いまして、Ver. 2.0においても、「重点的に取り組むこと」として地域座談会、増進型地域福祉の考え方を取り入れた課題の話し合いからその理想とする状態の実現に向けた小地域福祉計画づくりにも取り組んでいくということと掲げて、取り組みを進めることとしてきたところです。

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言が出されたことから、おおよそ3年間ほど取り組みが中断してきたところですが、令和5年3月に山之内地域で実施することができました。先ほどの報告事項の中で報告させていただいたように、山之内地域では3回目を開催することができております。

今回の地域福祉ビジョンVer. 3.0においても、引き続き取り組みを進めることとしております。

先ほども少し触れさせていただきましたが、令和6年度については山之内地域で継続して開催を支援していく。また、1年次実施予定地域としては清水丘地域、そして、裏面の住吉地域について、地域の意向を確認して実施に向けて進めていきたいというふうに思っております。

既に平成30年度から実施をしてきた地域についても、地域からも意向が上がっている地域もございます。そういった中で、今年度、1地域になるかもわかりませんが、開催を支援していくこととしています。

また、座談会から出てきました課題解決ということで、「地域のこどもたちの顔が見えるまち」を実現するということで、東粉浜地域では今年度もハロウィンイベント、ハッピーハロウィンということで、3年目について実施を計画されているということを聞いております。また、墨江地域については、地域独自で地域福祉会議というものを開催されまして、座談会等で議論をしてきたことも踏まえて、「墨江地域福祉ビジョン」というものを策定され、一定、地域、専門職、区社協、行政などが参加をしております墨江地域福祉研修会において、ビジョンの内容が共有されたという状況に至っております。

こういった状況の中で、先ほど申しあげたように、本年度につきましては山之内、清水丘、住吉といったところを重点的に進めていく。また、山之内地域では、これまで議論されてきたものを実現していく形で支援していけたらというふうに考えておりますので、よ

ろしくお願いをしたいと思います。

また、この間、アドバイザーとして参加をしていただいております、「増進型地域福祉」の考え方で進めております小野先生のほうから、ここで少しコメントをお願いしたいと思います。

【小野教授】 それでは、ちょっとご指名いただきましたが、皆さんの背中の方から話す形になって申し訳ございません。メンバーもいろいろ変わってきていますので、何なんだみたいなのところも当然あると思いますけど、そこに書いてあるとおり、私は、平成30年ですから2018年から関わって、5年以上になります。

それで、まずはこの座談会というものの位置づけなんですけど、書いてあるとおり、地域福祉の場合は、やっぱり、地域の人たちのいろんな声を基につくり上げていくというのが大前提で、そういう声を聞く場として、住吉も、あるいはそのほかの地域もそうですけど、そういう場をつくっていかうということで、住吉の場合にはこの地域座談会というふうな形で進めているわけです。

そして、これは私の考え方をこれから言いますが、地域福祉ということなんですが、地域福祉とは何かというと、一言で言えば地域の幸せをつくっていくことなんだと考えています。福祉をどう考えるかは、いろいろな考え方があって当然いいと思っていますが、今までの福祉は、やはり、はっきり言うとマイナスをゼロにするという福祉だったと思っています。それは必要だったと思いますね。これまではいろいろな問題を抱えていて、それをどうしよう、もうしんどいのをどうしようというところを何とかするのが福祉なんだという考え方で全然間違いないし、今でも非常に大切なんですけども。

ただ、時代は確実に変わってきているというところを、これは福祉関係者がどう考えるかということだと思いますが、現在でいうと、キーワードはウェルビーイングです。完全にウェルビーイングだと思います。SDGsからウェルビーイングへという流れも意識されてきていて、SDGsの次はウェルビーイングというあたりが、これは国連にしてもOECDにしても、あるいは様々な企業にしても、このあたりの大きな流れを特に私たちがどれだけ意識できているのか。いや福祉は違いますと、福祉はやっぱりウェルビーイングとはちょっと違って、マイナスからゼロですとずっと言い続けるのも福祉の1つの立場ですが、いやそうじゃないでしょうと。やっぱり、どんなしんどい人たちでも、どんな厳しい生活をしている人でも、どんな障がいを持っている人でも、外国籍の人でも、その地域に住んでいる限り、その人なりの生き方の実現、ウェルビーイングと一緒に考えていくの

が福祉の立場ですよというのをちゃんと言えるかどうかが本当に勝負だと思っていて、それを言おうと思ってきたのが、実はこの福祉ビジョン、そして、その象徴の1つとして地域座談会だと私は思っていて、つまり、この地域座談会での考え方とか取組みというのが、地域の福祉を考えていきますよというのをみんなで考えていきたいと思います、そういうモデルにしたかったんですよね。

なるほど、福祉ってそういうものなのかというものが目に見える形で、この座談会を通して実現していったら、それはある意味、例えば福祉とは何と聞かれたときに、例えば住宅、いい住宅とは何と言ったら、では、それだったら住宅展示場に行ってみてくださいと言って、あの展示場で、こういう住宅はいいですねと見られるじゃないですか。いい車を探したいねと言ったら、自動車販売店に行って、こういう新車が出ていますよ、こういう性能がありますよと見せるじゃないですか。では、福祉はそれをどこで見せるかという話なんですよ。

実際に、様々な取り組みが行われて、そこで見ていっていただいていたんですけども、先ほどのいわゆる幸福をつくり出そう、ウェルビーイングをつくり出そうという福祉をぜひ見せていきたいと。それを見せていく場として、この地域の座談会というものがそういう可能性を持っているというふうに私は一番最初から思って、そういう取組みならやるといことで関わったんです。だから、それは私の考え方をもちろん基に考えていることなので、いやそうじゃないですよと言われれば、いつでも、別にずっとそれにしがみつくつもりはなかったんですけど、今までは関わった責任上、やっぱり私はこういう考え方なんだというのをまず皆さんに伝えようと思ってきました。皆さんがどう考えるか、それは皆さんで考えていただければいいので、それを受けて、さらにいろいろな考え方を意見交換ができればいいなというふうには思っています。でも、少なくともこの座談会については、そういう形で進めていこうと思ってやってきたわけです。

そこにあるとおり、平成30年度、31年度に幾つかの地域に入って、話合いをして、増進型の話合いといってそれぞれグループごとにこの地域はどうなったらいいでしょうね、みたいな話をしていくんですけど、非常に面白いです。本当にそれぞれ、最初は何をするんだみたいなところから始まるんですけど、1回目、一番最初はこの地域の課題を出してくださいと言うんですね。課題を出してくださいというと、出るんですわ。この地域、これが大変、あれが大変、これがない、高齢化して、子どもが少なくなって、お店屋さんが閉まっちゃってとか、いっぱいわんさか出て、「うわっ、すごいな」という感じになるんです

けど。

その次の段階として、そういう課題の中のいずれかを取り上げて、何か取り組んでいきたいなというものを取り上げて、みんなで考えていきましょうと。普通それを考えていきましょうというときに、大体は、ではこの地域の強みと弱みを考えながらやっていきましょうねみたいに言うんですけど、弱みを考えても全然しようがないと思っているんですね。やっぱり、ストレングスなんです。弱みは誰でも持っているし、しんどいところは誰でも持っているんですけど、それを考えるよりも、その地域の持っているいいところ、ストレングス、そういうものをエンパワーしながら、お互いにエンパワーしながら、うちはこの意図があるんちゃうみたいなのところを出し合いながら、それをどういうふうに課題に持っていけるんだろうというのを考えながら、理想のアイデアというのを出してもらっています。こうなったらいいよねというのは、どんなものなんだろうというのを出してもらっています。

これも最初は、皆さん普通、今、理想と言っても、理想を考えてくださいというのを言える職場って、そうはないと思いますし、ぜひ区長には住吉区は理想を語るんだと言っていただきたいんですけど、やっぱり、平場でそういう話というのはまずしない。でも、やっぱり、みんなが住んでいる地域ですと、では、この地域をどうしたらいいと思うかを、ちょっと理想をあえて考えてみましょう。だから、そういう座談会なので、あえてやってみるというのはすごくチャレンジなのでいいと思っているんですけど。あえてやってみましょうという、何か最初はぼそぼそ、ぼそぼそとなんですけど、だんだんそこで、これだったらこういうのがいけるんちゃうとかという話が出てくると、だんだん乗ってきて、かぶさってくるんですね。

皆さん参加されたことがある方は残っていると思うんですが、結構いろんな意見が出てきて、最後は、わーっというふうな形になってきて、こちらが止めるのが大変なぐらい盛り上がるようなことも度々経験してきました。

その盛り上がってきたのをある程度見える化をするような形で作品を作るんですけど、よかったところでいうと、そこまではすごくできるというのが分かってきたということです。ですから、そこに山之内を入れて7か所ぐらいでやってきたところは、そこまではすごくできるというのが分かったんですが、課題、それも最大の課題を言えば、座談会が座談会で終わっちゃっているという話なんです。みんなで話し合って、ここまでできて面白かったねと。やれやれと。せっかくこれをやりましょうと言っていたのが、なかなか実

現しない。

先ほど増田さんがいい感じで言ったんですけど、結果としては、やっぱり、そこに書いてあったことは、私はちゃんと実現していないと思います。そこはちゃんと評価すべきだと考えていて、これは私のもちろん反省でもあります、せっかくあそこまで話し合ったものは、やっぱり実現させたいと。もちろん言い訳はいろいろあります。すぐコロナの時期に入っちゃったので、いよいよこれからというときになかなか難しかったんだとか、そういうところを支援する仕組みがまだ十分じゃなかったんだと、いろいろ言うことはできるので、それを言えばいいと思いますが、でも、結果は結果です。残念ながら、成果を生み出せていない。アウトプット、しっかりそのあたりができてないということは、やっぱり、しっかりと受け止めて。

ですから、実現させたいんですよ、せっかくあそこまで話し合ったのを。メンバーは変わっていきます、座談会のメンバーも変わっていくところもあるし、残っている人たちもいるんですけど、でも、変わったからといって終わりにするというのも、ちょっと違うだろうと。やっぱり、せっかく話し合ったものを実現すれば、これがこうなるんだというのが、みんなの目に見えますので、やっぱり、地域福祉とはこうだよねというのを、これを切り口に、ぜひつくっていききたいなと、そういう思いで関わってきました。

ですので、今年は、やっぱり、やるのであれば、しっかりと実現するところまでやらないと、5年やっていて成果が出ないとなったら、同じかという話になってしまいますのでね。その最後の踏ん張りどころかなというような思いで関わっていつているところです。

ですので、そのあたりに対して、皆さんがどう思うかはいろいろ当然あっていいと思っています。ただ、せっかくここまでやってきた事業ですし、次のVer. 3.0と新しくなったところにも1つのコアとして入っているということですので、そのあたりについては、ぜひ、いわゆるこの専門会議のほうでもサポートをしていただくとありがたいなと思います。

それで、いよいよそれが最後、駄目だったら、皆さんに判断していただいて、今後はどうするということも決めていただいてもいいと思いますが、ただ、今はちょうどこれを進めようというところですので、ぜひ何か、せっかくやってきたので、ここまでやってきたのが、最後どうなるかというところにちょうどいると。初めてそういう話を聞く人も、そこで来ているのみたいなところだと思いますけど、やっぱり、そのくらいのところで、本当に分岐点だなと思っています。

それで、世の中の背景としては、すごい追い風です。大きい話でいうと、地域共生社会と、そういう政策の大きな流れに今あります。地域の中で共生できるものをどうつくるかというのが大前提なんですけど、それよりも、座談会で話していることがもう半歩ぐらい先の話ができていますので、こういうのができると、恐らく全国的にも1つの新しいやり方を示せると思っていますし、先ほど言ったように、ウェルビーイングというのが結構意識がされてきていますので、一般の方々に対しても、地域の住民の皆さんに対しても、そういう話をしても、一番最初の頃は「何だ、それ」みたいな感じだったんですけど、大分雰囲気も変わってきているなというふうに思っていて。むしろ、逆に、いわゆる福祉の現場、あえて言いますけど福祉の福祉観をどういうふうにこれからしていくのだというのが問われているのかなと思っていますので、あえて専門会議の場ですから、そのあたりを皆さんと一緒に問題意識を共有したいと思って提案させていただいています。

何を言っているんだというご意見があれば、ぜひしていただいて、一応コミュニケーションをしながら進めましょうなので、いろんな意見を交わしながら進んでいけばいいなというふうに考えているということで、ここは一応コメントということなので、私のコメントとして述べさせていただきたいと思います。

以上でございます。

【増田地域福祉担当係長】 小野先生、どうもありがとうございました。

ということで、事務局のほうとしてもしっかりと今年度、地域座談会について進めていく上で、話し合われた結果を実現させていくというところ、成果を出していくというところを踏まえて進めていきたいと思っています。皆さんのご意見をお願いしたいと思っています。

【西田委員長】 ありがとうございます。

それでは、事務局から説明がございました内容につきまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【山下委員】 社会福祉協議会会長の山下でございます。もう一面は、山之内スマイル協議会、地活協の会長でもあります。先生のコメントをお聞きしまして、ちょっと一言しゃべらせていただきます。

私、学校協議会の委員もしてまして、このコロナの3年間で子どもの性格が変わってしまったという感がしているんです。今まで地域でいろんな行事、お祭り等があったり、友だち同士が話し合う、遊び合うという場があったんですけど、いきなりなくなっちゃって、

その当時の3年生の子が今6年生なんですよね。教育文化課の情報をちらっと聞いてみま
すと、12地域の中の小学校の6年生が荒れているらしいんですよ。当山之内もそうなん
です。これは、やっぱり、どうにかしなくちゃいけないということで、私自身、山之内スマ
イル協議会で地域座談会を遣らせていただいた中で、この資料の2を見ていただいても分
かりますように、子どもという文言がたくさん出ているんです。そのチーム1のラビット
は、子どもは出ていませんけども、餅つき大会、これはあくまでも子ども対象の行事なん
です。これ全て3チームとも出ていまして、何とかしようという気持ちになっております。
8月4日に餅つきの代わりに子どもカーニバル的なことをやって、子どもを楽しませたい
なというふうに考えている次第です。

ですから、委員の皆様方、私を含めて、専門会議とはいえども専門家ではございません
ので、難しいことは分かりませんが、要は今、抱えている問題として、子どもをもう
少し明るい、まともな子にしないと大変なことになるなという気持ちが大いにしておりま
す。

以上でございます。

【西田委員長】 山下委員、ありがとうございます。コメントされますか、よろしいで
すか。振っていきますね。いいですか。ほかの委員の先生方、どうでしょうか。八牟禮委
員、何か言いたいことがあるのではないかなと思ひまして。

【八牟禮委員】 主任児童委員の八牟禮です。

子どもをどうにかというのはよく思っているところです。でも、このコロナ禍を過ぎし
た子どもたち、家におりなさいと言われたら、ゲームしかなかったんだろうなと思ひます。

どうにかしなければいけないと思うんですけど。子どもたちもユーチューブを見て、「え
っ、こんなことを知っているの」とかいろいろあるので。子どもたちの頭の中というか、
ちょっと分からないところもあって、私が子どものときの、これが子どもらしい、あれが
子どもらしいというのは、すごく変化してしまっているから、何か受け止めて、絶対これ
は違うよというところを分かってもらおうというのは変ですけど、強制というのもちょっと
言葉が違うような気がするんですけど。ちょっとボキャブラリーが少ないのでいい表現が
分かりませんが、何かもう少し、あまり緊張しない子だったりとか、もっと明るくなって
もらいたいなと思う子もいますし、やり過ぎやろうという子もいたりするので、ちょうど
いいところ辺の子がいらないような気がしています。今、仕事もそういうことをしています。

今日は子育てサロンがあったのですが、お母さん方のコロナのときに結構なさって、

やっぱり、その辺を家で子どもを見ている。家に居るということで、情報を得るツールがネットとかになってしまっているところがあって。これが正しいと思っている子どももたくさんいるので、何か情報、人と接する場所。お年寄りに関してはたくさんあるんですけど、子ども、子育て世代のところは、少ないような気がするんですね。山之内さんのところのこういうイベントってすごくいいなと思って見ていました。そういうところです。

【西田委員長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。宮川先生、いかがでしょうか。

【宮川委員】 施設協議会の宮川です。ふだんは保育園の園長をしています。

そうですね、私もこの地域座談会、平成30年のとき、長居地域で参加させていただいています。実際にそこで話し合ったことが、いろんな足りない部分、地域に足りない部分と、いうのを話し合って、課題が見えてきて、1つ地域新聞を作るというようなことで、長居の新聞を作っていて、今、僕もその編集委員で参加させていただいています。八牟禮委員も参加させていただいています。

そのときは、いろんな情報弱者がやっぱりいるんじゃないかというような話もあって、それで地域の新聞でいろんな情報、地域の情報を伝えていこうというような中での1つの取り組みではあったんですが、情報弱者に届いているかどうかというところまでは達成していないかなという感じはしていますので、これからまだまだ精進が必要かなとは思っております。

先ほどから子どもの話が出ていますので、今日、住吉中学のほうである協議会があって、私出ていたんですが、住吉小学校の校長先生も来られていて、6年生が荒れているというような話も聞いております。

なぜ子どもがネットの世界に入っていってしまうのかというところで、これは1つのことだと思うんですけど、子どもに真剣に向き合ってくれる人というのが周りになかなかなくて。でも、ネットだったら、何か不安なことを言うと、それに対して返事が必ずある。いろんな人から励ましの言葉をもらったりだとか、いろいろ応援してくれる言葉、また、内容にすごい向き合って話を聞いてくれる人がネットの中には居るというところで、その人がいい人かどうかというところはあると思うんですけど、何かそういうところで、ネットの中にゲームとかSNSなんかで入っていってしまって、犯罪にも巻き込まれてしまう場合もあるんでしょうけど、そういうことが実際、今、地域の中で起きているというお話もありました。

では、誰がその話を聞いていく、その子に向かって、聞く場所、居場所、その居場所の中にいる人、支える人というのをどのように住吉区の中で育てていくかというところが一番難しいところかなというふうに感じております。

今のところ、これぐらいで、すみません。

【西田委員長】 ありがとうございます。あともう一方だけいただきましょうか。濱本委員、一言コメント、ご意見いただければと思います。

【濱本委員】 こんばんは。あさか会の濱本です。私は、ふだん大人の方を対象にお仕事をしているので、子どもという和我が子ぐらいしかいてないんですけど、私が最近子どもさんというか、中学生を見ていて思うんですけど、うちの子は高校生になったんですけど、子どもの中学生のときから見ていて、コロナで家にいても、別に反抗期で困っていますという話をお友だちのお母さんとかから聞かなくなって。私が子どものとき、どここの誰々さんは荒れているらしいみたいなのうわさとかが結構流れていたんですけど、今の子どもって反抗期がなくて。私らの親世代の人は、「反抗期がない子どもは怖いよ」みたいに言われたりとかするんですけど。うちの子も全然反抗期がなくて、普通にお母さんとしゃべりますし、お父さんとしゃべりますし、おばあちゃん大好きですし、何か本当に困るのかなと。これコロナでずっとお家にいても、だから、全然邪魔にもならないし、なんやったら家の用事を手伝ってもらえてラッキーぐらいな感じの子なんですけど。そういうのもこのコロナに関係するのか。コロナの話とは全然違うんですけど、私、今ずっといろんな方のお話を聞かせていただいていて、地域で交流しなくても、家にいても、ネットも別にそんなネットをしたらあかんよとか、携帯を離しなさいとか言わなくても、程々にやめるし、そんなに正直困らないんです。家にいても。何でこれがコロナやから関係ありますとか、ちょっと分からないんですけど。本当に部活もちゃんと行きますし、友だちとも遊びますし、家でも普通ですし、反抗しないようになった子どもはどうなるのかなと。向こうがもしかしたらうまいのかもしれないですし、こちらも寸止めで興奮させる手前で止めているのかもしれないし、ちょっと分からないので、その辺も地域の中で寄り集まらなくてもへっちゃらな子ども。何が言いたいのがちょっと分からなくなってきましたけど、反抗期ないですよ。本当にないです。どこからも聞かないです、壁に穴を空けたとか、階段どうかしたとか、全然聞かないので、何かそんな人も専門家の方とかから聞くと、あるのかなとかちょっと思ったりして、聞いていました。すみません、取り留めない話で。

【西田委員長】 ありがとうございます。

この地域座談会の件については、このビジョンの具現化のためには必要なプロセスというふうに認識をしておりますし、山下委員とか八牟禮委員のほうからも出ていましたように、どうにかしなければいけないという問題意識を持ち始めている人が結構いることも事実かなというふうに思いますので。やはり、学校の状況が非常によくないという話はよく聞く話ですけども、どうにかしなければいけないと思う人たちが集まる場所がない、意見を交わし合う場所がないというところで、1つ、そこから増進型福祉へどう展開していくのかということを考えると、とても大事なプロセスだなというふうに思いますので。

全てコロナのせいに僕ら、私も社会福祉法人で経営に携わっておりますので、全てコロナのせいというふうに言ってきましたが、もうそろそろしんどくなってきましたので、やはり増進型、つながりの中で、少しでも人間関係の中で幸せを感じられる、そういう瞬間というのは必要かなというふうに思いますので。そういった地域の中で共有するというプロセスを地域座談会の中でつくっていただく、そういう1つの場がある。参加する参加しないは、ご本人たちのあれですけども、そういう選択ができるであるとか、多様性を担保するであるとか、いろんな要素があると思いますが、進めていっていただきたいなというふうに思います。

ですので、今年は増進型福祉の考え方に基づいて地域座談会を進めていくというところですので、委員の皆さん方も、できましたら積極的に関わっていただき、意見を言っていただき、進めていっていただきたいなというふうに思いますので、私のほうからもよろしく願いいたします。

それではグループワークのほうに移ってまいりたいと思いますので、事務局のほうから説明をお願いします。

【増田地域福祉担当係長】 ありがとうございます。

そうしたら、グループワークのほうに移ってまいりたいと思いますので、すみません、区役所の皆さんもグループワークの席に移動いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

意見交換のテーマにつきましては、「住吉区地域福祉ビジョンVer. 3.0」において重点的に取り組むべきことについてお話をいただけたらと思います。先ほど、本年度地域座談会について取り組みを推進していくということを提案させていただいております。その上で、今回のビジョンVer. 3.0で、実現すべきこと、めざすべきことを「これからの目標」としてお示しをしているところでありますが、今回は、とりわけ「基本目標1」を中心という

ことで、A3判で「基本目標1」のところを集約した用紙も机のほうに置かせていただいております。

これを見ていただきまして、とりわけ「これからの目標」の緑の星印がついているところが、こういったところをめざしていくというところを分かりやすく表記をしておりますけれども、こういったところ、例えば福祉への関心があまり高くない方にどうやって参画していってもらふのというようなところ、こういった働きかけが有効かということ、また、お互いさまの関係を増やすにはどのような取組みが有効かといったところ、「ゆるやかなつながり」づくりということを基本理念に掲げておりますので、そういった視点を踏まえてご議論をいただければと思っております。

すみません。これで小野先生に振るのもなんですが、グループワークに入るに当たって、小野先生からもコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【小野教授】 皆さん、お手元のやつを見て、基本目標が2つあるというのはご存じだと思いますけど、「基本目標1」が非常にざっくり言ったら地域づくりみたいなものです。地域をどうやってつくっていくのか。「基本目標2」が支援、個別支援を中心として様々な課題を抱える人をどう支援しようかということなので、今日はそちらの「基本目標1」のほうのものを考えてくださいということなんですけど。

①から④まであって、非常にざっくり見ていただくと分かるかと思いますが、1番、2番が、様々な地域の活動への参加の問題なんです。様々ないろいろプログラムはあるんですけど、やっぱり、なかなか参加者が限定されているとかね。でも、もう一方で、今、これは地域共生社会にも出てくるいわゆる居場所とか、そういう出番というものをどんなふうにしたらつくっていけるんだろうなというあたりの、そういう課題が特に1番、2番のほうに書いてあります。

そのあたりで、皆さんの先ほどのアイデア、どんなことがあるかとか、今こうだとかというのを出し合っていて。まずは、皆さんこだわっているものを出しちゃえばいいと思うんですけど、「私はこれ関心ありますわ。どうしたらいいんでしょうね」みたいなところで出して、みんなで何か新しいアイデアが出てきたら、さらにいいなと思えますね。1番、2番じゃない、1番と3番がそういう参加系ですね、横になっていましたね。

2番、4番を見ていただくと、2番のほうで、話し合うというか、みんなで話し合えるような場をどういうふうにつくっていけるんだろうということで、地域座談会なんかはその典型なんですけど、それだけじゃなくて、もっといろいろな話合いの場をつくれる仕組み

みとか、あるいは、さっき実は言わなかったんですけど、パブリック・コメントで募集した中からそういういろんな人の声を拾う仕組みができないかみたいなところがあったんですけど。あるいは、個別支援についてそういう意見があったんですが、それだけじゃなくて、その地域に住んでいる人たちの声をどんなふうにして話合いにつなげていくかというアイデアなんか皆さんからもらえればいいなということでしょうし。

4番は、どちらかというと、いわゆる情報の関係ですね。先ほどありましたように、例えばこんなふうな形で情報発信したり、情報提供したりできるんじゃないかということで、子どもの問題で典型的に分かっていますけど、今のネット社会になったときに、どれが本場で、どれがうそかも分からないような中で、大人でさえよく分かっていないようなところをもうちょっと地域というリアルな場所でも、お互いに重要な話なんかをしたり、そこで重要な情報を交換できるようになるにはどうしたらいいんだろうなというあたりは、これは本当に大人の力の見せどころだと思いますので、皆さん、そのあたりはいろいろなご意見が出てくればいいのかと思いますので。

まずは、満遍なくやるというよりは、皆さんが気になっているところからやったほうがいいと思います。私これ気になるわと。それで、いろんな人にアイデアを出してもらいながら、少しでもブレークスルーできればいいんだろうなというふうに思いますので。恐らくフリーディスカッションですから、あんまりしゃちこばらずに、ブレインストーミングみたいなことで、本当にできるかどうか分からないけど、とにかく言ってみようみたいなぐらいの話のほうがエキサイティングになると思いますので、楽しんで話していただければいいかなというふうに思います。そんな感じです。

【増田地域福祉担当係長】 ありがとうございます。

そうしたら、ここからグループワークに入っていきたいと思います。時間としましては40分までお話を進めていただいて、40分から少し、それぞれの発表をしていただいてという形で進めていきたいと思いますので、それぞれの班でよろしく願いをいたします。

(グループワーク)

【増田地域福祉担当係長】 すいません、盛り上がっているところかと思いますが、時間が来ましたのでこれで終わらせていただいてよろしいでしょうか。

そしたら、3分ずつぐらいで、それぞれの議論の要点を発表していただけたらと思います。

【糸井地域支援担当係長】 こちらの班では、担い手不足というところから話に入って

いって、やっぱり地域、何かやっ払いこうと思っても、結局、担い手がいなかったら、できないと。何かやっ払いこうとするときの担い手を増やすというところで、何か仕掛けはないかというところと。

あと町会、一定役割はあるけど、町会のメリットとか、町会に入っ払いどうなるのかというところと、あとは、1回PTAとか町会に関わったら、引きずり込まれるように地域の役員をしなければならないようになるというところが、担い手不足につながっていくのかなとか。

あとは、お医者さんがなかなか地域の担い手になるということは難しいのではないのか。よほどのことがない限り、地域の会議に出てきたりとか、担い手になったりというのはちょっと難しいかなと。地域から引っ張り込むというようなことが必要であるというところとか。

あとは、やっぱりみんなの居場所としては学校をどう活用するか。学校にみんなが集まるという場所になったら、そこをもっと上手に使っ払いいったら、何か新しいことが生まれるのではないでしようか。

あとは、不登校の子とかが15歳のときに学校を決めるという、そんな人生の選択をするというのを、お子さんとか親御さんだけに決めさせるのかとか、そういう相談にも乗っ払いもらえるようなところがないのかなというような話ですとか。

あとは最後、全然話は違いますがということで、京都に道に名前があるように、住吉区も各通りに、みんなで参加して道に名前つけたらどうでしようか。それを子どもとか高齢者、障がいの方関係なく、みんなで道の名前をつけたら、それが参加の1つのきっかけにならないかなというようにことをぜひ行政でやってほしいということをおっ払いしました。

以上でございます。

【増田地域福祉担当係長】 ありがとうございます。そしたら、お願いします。

【中濱保健福祉課長代理】 こちらはB班の、緩やかなつながりのための具体的な取り組みについて、何点か意見をいただいております。

例えば地域福祉という言葉なんですけど、全住民を対象というよりかは、要は一般の人は対象でないというか、当事者意識がない人が多いと。地域福祉づくり、つながりづくりをつくるには、一般の人の意見を吸い上げて、目に見える形にすることが有効ではないか、一般の人に実感を持っ払いもらうことが大事ではないかという意見をいただきました。

そのほかにも、地域福祉という言葉ですけども、福祉という部分に特化せずに、スポーツ、文化活動などの取り組みが有効ではないか。住吉区は学校・園も多いので、そういったところと連携していったらどうでしょうかという意見もいただいております。

ただ、昔でしたらよく区全体でソフトボール大会とかがあったというふうなことをお聞きしたんですが、今は子ども会が休会等で、そういったのが止まっているのもちょっと残念ですねという声が上がっておりました。

そのほかでは、子どもの登下校時に、高齢者が植木に水やりをしたり、散歩したりと、外出して見守ることが地域のつながりづくりにも有効ではないかという意見もいただきました。

あと、最後になりますが、子どもたちにこのまちが好きと聞いて、自分たちの住んでいる自分たちのまちのことを考えてもらうことが、地域福祉を考える一歩かもしれませんねという意見もいただきました。

以上です。

【増田地域福祉担当係長】 ありがとうございます。

皆さんの活発なご議論をいただいて、貴重な意見をいただきまして、これを今年度の取り組みに生かしていけたらと思います。小野先生からコメントがありましたらお願いいたします。

【小野教授】 皆さんがお話しなので、大丈夫だと思いますけど。すごい盛り上がって話していたので、「ああ、いいな」というふうな感じを持っていました。住民座談会、こんな感じでやって、こんな話をしてもいいのかというところからぼっといろいろ出ています。さっきの通りに名前をつけるのなんかも面白いし、水やりをやりながら登下校の子どもたちを見守るというのも面白いし。前にやったところで、それで思い出したんですけど、では、例えば犬の散歩を結構みんなやっていますよねという話があって、犬の散歩をやっている人たちがまちの何か気になるところを見てくれるようになっていいよねみたいなアイデアがあって、そんな感じだと思うんですよね。地域のことは、皆さんのほうがよく知っているので、具体的にそんな話がいろいろ出るんだろうなと思います。

一応、形だけで言うと、A B C D理論というのがあるんですけど、ばかにしたような。A B C D理論というのは、アセット・ベースド・コミュニティー・デベロップメントというんですけど、要は地域の中に実はいろんな資源があるので、私たちはそういうものを少しずつ発見して、それを今回で言ったら地域福祉に役立てるようなね。もっとほかにもあ

と思うんですけど。そういう地域の資源をどうやって見つけられるのかが、地域づくりのポイントなんだと考えるような理論があるんですけど、まさに今日やっていたのは、地域の中にこんなのあるんじゃないのというのをみんなで探しながら、新しい地域福祉のきっかけというものをつくれればいいねと。

私がこだわったのは、その基準をどうするんですかというところなので、今までみたいな、非難しているわけではないですけど、マイナスをゼロで終わりにするような福祉よりは、みんなが「ああ、面白いね」「わくわくするね」と。だから、どうしても一般の市民、住民の人が福祉と聞いただけで、何か私は違うわと思われちゃうのはしゃくじゃないですか。いや福祉こそ、私関わりたいわとなるような、そんな福祉観が生まれてくるような、そんなプログラムになっていくと魅力的だなと思いますので。今日の話は、本当に幾つか出ていたと思いますから、これをぜひ1つでも2つでも実現していただけると、せっかく区長がおいでですので、そのあたりを明言していただけたらいいなというふうに思いましたので、よろしくご検討いただければと思います。

私からは以上です。

【増田地域福祉担当係長】 どうもありがとうございました。

そうしたら、今ありましたように、この中から少しでも実現というか、しっかりと取り入れるものは取り入れていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長、お願いいたします。

【西田委員長】 皆さん、ご苦労さまでした。今日いただきました内容については、今日の議論を踏まえて、このビジョンの進捗管理をここの専門会議で行っていくということと、地域座談会の進捗はしっかりとこのビジョンの肝になっているところですので、今後この会議のほうで確認をしてまいりたいなというふうに思いますので。

終了予定の時間になりましたので、最後に区長のほうから、今日の会議について一言お願いします。

【橘区長】 長時間にわたり、皆様から貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。冒頭、本来、自己紹介的に私も申しあげるべきところだったのかもわかりませんが、中之島、淀屋橋の市役所で40年間これまで勤務してまいりました。区役所の勤務は一切なく、局ばかりです。しかも、まさに今日の会議のメインであります福祉行政は、1つも、そういう部署に配属もございませんでしたし、教育、健康、そういったところ辺の部署にも配属されませんでした。そういった状況の中で、今日、私もグル

ープワークに参加させていただきましたけども、本当に皆様方がこの地域を何とかよくしていこうと、まさにそういう思いでの発言、本当に感銘を受けた次第でありますし、自分自身がそのことに対して何かコメントできるような知識、経験も全くないというようなところが本当に恥ずかしくも今日、自分自身でも分かったようなところでもあります。

小野先生もおっしゃいましたように、はたから見ただけではありますけれども、福祉というイメージというのは本当にマイナスからゼロに持っていくというぐらいのことなのかな程度にしか、考えとしてはありませんでしたけれども、まさに小野先生おっしゃいますように、増進型地域福祉、この概要についてはこれまで担当課長からも聞いていたけど、今日、直接先生からそのご説明をお聞きして、なるほどなど。まさに時代といたしますか、状況も変わってきて、行政として、あるいは地域としてもそういうふうな方向に向かって進むべきなんだろうなというふうに、改めて認識させていただいたようなところでもあります。

本日、皆さんからいただいたご意見を基に、区役所といたしましてもこのビジョンを少しでも、一歩でも、少しずつでも着実に前へ進めていきたい、実現に向けて動き出していきたいという気持ちでいっぱいでございます。引き続き、また小野先生をはじめ、西田委員長をはじめ、皆さん方からお力添えを賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

【西田委員長】 ありがとうございます。本日いただいた議論の内容につきましては、区政会議のほうへ報告等を事務局のほうから行っていただきたいと思いますと思っております。

それでは、今後のスケジュール等について事務局からお願いいたします。

【南保健福祉課長代理】 西田委員長、ありがとうございました。

今後のスケジュールについてお伝えします。次第にも書かせていただいておりますが、次の第2回を10月31日木曜日、第3回を令和7年2月6日木曜日、いずれも午後6時からを予定しております。事務局よりお知らせ、ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

以上で、地域福祉専門会議を終了させていただきます。どうもお疲れさまでございました。

—— 了 ——